

2020年度活動報告書 赤松正行 役職：教授

学内での活動

1 教務委員会（委員長）

現在および今後のカリキュラムを検討し、授業が円滑に進行するよう連絡・調整した。

2 入学試験委員会

現在の入学試験を調整し、新課程創設を含めた将来の入学制度について検討した。

3 研究委員会

現在の学内研究、特にプロジェクト研究について評価と調整を行った。

4 メディア表現基礎3（導入科目）

全教員が参加するメディア表現基礎3では、高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるためのメディア表現特論の講義の概要を紹介した。個人の担当講義としては、現実の認識問題や自律分散型の社会や表現の在り方を考察し、その後の展開への端緒を開いた。

5 メディア表現特論B（専門科目）

小林昌廣教授、前林明次教授とともに専門科目であるメディア表現特論Bを担当し、全教員による議論では今日のメディア表現と身体および環境をめぐる動向と諸問題を検討した。個別の講義では、リアリティとモビリティをテーマとして個人作品の紹介を通して、テクノロジーによる意識の変遷を考察し、簡単な実習としてモバイルAR作品の企画と実装による実践を行なった。また、ゲスト講師として岩瀬潤子（青山学院大学客員教授）を招き、AR、AI、5Gなどが普及しつつある現代社会の様相を考察した。

6 個人研究

個人ゼミを主催し、有志学生とともにメディア・アート関連の議論と制作を行い、参加学生の修士研究や年次制作などの指導をゼミとして行った。

学外での活動

展覧会やアプリなどを通じて、作品の構想から制作、発表、記録などの一連の作業を行った。これらの研究は自転車をもとに、モバイル・デバイスやウェアラブル・デバイス、そしてAR（拡張現実・変容現実感）やVR（仮想現実感）を応用した表現であり、伝統的なフォーマットを超える新しい可能性を探求した。ただし、2019年12月末に交通事故に遭い、2020年3月末まで入院、その後もリハビリテーションを続けたが、自転車に乗ることが困難であった。このため、調査や制作などに大幅に制約を受け、結果的に作品発表などの研究成果が著しく少ない結果となった。

発表歴（時系列逆順）

2021.03.31 レポート「新型コロナウイルスと自転車」, 紀要 第12巻, 情報科学芸術大学院大学

2021.02.21 イベント「新型グループ・ライド 2021 Winter」, 世界各地およびオンライン

2021.02.05 – 02.21 展覧会「ARART Exhibition」, 第13回恵比寿映像祭「映像の気持ち」, 東京都写真美術館, 東京

2020.10.24 イベント「新型グループ・ピクニック 2020 Autumn」, 世界各地およびオンライン

2020.08.01 – 09.27 技術展示「養老天命反転ARにおけるドローン・フォトグラメトリ」, 2020空宙博企画展「ドローンが拓く未来」, 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館, 各務原

2020.07.23 イベント「新型グループ・ライド 2020 Summer」, 世界各地およびオンライン

2020.04.25 イベント「新型グループ・ライド Prototype 2」, 世界各地およびオンライン

2020.04.19 イベント「新型グループ・ライド Prototype 1」, 世界各地およびオンライン